

団体紹介

Performing Today:

岡山少年少女合唱団

1967年、「岡山に天使のような歌声を響かせよう」と故木村正義氏の提唱により発足。年長園児から高校生までの団員が、毎週土曜日蓮昌寺で楽しく練習しています。  
1978年11月にはその地道な活動が認められ、岡山県教育委員会より社会文化功労賞を受賞しました。

全日本少年少女合唱連盟合唱祭をはじめ、県内外で意欲的に演奏活動を行っています。

毎年定期演奏会を開催。今年秋40周年を迎え、12月23日には創立40周年記念定期演奏会を、岡山市民文化ホールで開催する予定です。

出演者

川崎医科大学室内管弦楽団

1st.ヴァイオリン ホルン  
古賀 木綿子 江畑 琢矢  
薄 聖子 藤山 秀司  
近喰 由美子 清水 宣善  
小池 裕之 杉本 賢志  
阿曾沼 和代  
景山 慶彦 トランペット  
上野 寛子  
三原 一孝  
2nd.ヴァイオリン  
三島 恵  
周藤 泰章 トロンボーン  
安井 晴之進 大村 昌治郎  
眞田 亜子 日生 貴之(賛助)  
澤田 和貴 ティンパニ  
井本 理恵 赤澤 恭子  
橋本 侑佳  
片山 みずえ  
黒木 美沙緒

ヴァイオラ  
中島 由貴  
山崎 美樹  
須藤 杏子  
阿部 未来  
中川 真理絵  
甲斐田 裕子  
橋本 淳  
山本 浩之  
福浦 辰夫

チェロ  
福嶋 健太  
木畑 智哲  
西村 佳代子  
和田 翔子  
佐藤 篤史  
兵 行義  
福島 達夫

コントラバス  
木畑 正彦  
廣田 千草  
徳毛 典子

フルート  
福嶋 るい  
齊藤 志保

オーボエ  
野村 ゆづき  
峯崎 みどり

クラリネット  
服部 孝二  
相原 亜由美  
高瀬 真祐美

ファゴット  
正木 翔  
中川 望

岡山大学交響楽団

1st.ヴァイオリン コントラバス  
青影 誠治 大内 香織  
稲田 まじか 魚住 菜月  
岡野 光太郎 杉谷 翔  
清久 彩 梅井 克行  
志部 文香 後藤 侑希子  
吉田 華子 藤田 泰彦  
上川 満美子 上甲 真也  
白髪 瞳  
平井 宏太 フルード  
升田 智也 伊藤 恵未  
岸 新 森永 千絵子  
景山 慶彦  
前田 尚子

2nd.ヴァイオリン  
中島 恵子  
上野 和紀  
尾上 由華  
金丸 拓弥  
神原 隆次  
高橋 映美  
武岡 夕貴  
能勢 知理  
原田 洋輔  
藤澤 和也  
前田 勝行  
森田 和也  
吉武 央智  
飯田 倫公

ヴァイオラ  
石崎 麻利央  
岡山 寛  
浜岡 さやか  
三宅 奏子  
山口 智代  
小郷 由貴  
佐藤 晃一  
立川 由貴  
難倉 弥生

ホルン  
出口 恵理  
三輪 由紀光  
瀬尾 光  
林田 みなみ  
尾高 弘貴

チェロ  
市岡 幸子  
内海 彩英子  
佐伯 枝里子  
谷原 和美  
三木 綾香  
植木 美圭  
廣瀬 美美加  
三村 暢子  
國友 雅義  
日浦 祥子  
益田 ちひろ

チェンバ  
本屋敷 勝信  
佐藤 禎子  
土井 幸雄  
難波 由宏  
羽原 佳子  
松本 高宏

フルード  
坂井 昌子  
小池 かほる

倉敷管弦楽団

1st.ヴァイオリン クラリネット  
佐藤 真理子 松原 郁恵  
阿曾沼 和代 松本 美和子  
岡崎 良弘  
藤田 真理 ファゴット  
平松 綾 北村 直也  
福森 絢子  
丸山 博樹  
井上 真由美(賛助) ホルン  
串部 美幸(賛助) 吉市 幹雄  
滝沢 陽子(賛助) 加藤 友美

2nd.ヴァイオリン トランペット  
中塚 えりか 原田 宗範  
上原 保美 山本 有恒  
大村 奈美  
岡崎 将丈 ティンパニ  
原田 由紀恵 高尾 暢子  
日笠 京子  
村上 節美  
中野 了(賛助)

ヴァイオラ  
松江 靖子  
井上 順子  
岩瀬 裕子  
大塚 浩二  
小村 知子  
武本 克己  
出宮 治子  
山口 俊一

チェロ  
松江 雄二  
石川 恵子  
大西 智幸  
栗木 由美子  
黒田 正典  
田中 光子  
田辺 幹夫  
辻田 順子  
日野 加奈子  
松本 圭子

コントラバス  
本屋敷 勝信  
佐藤 禎子  
土井 幸雄  
難波 由宏  
羽原 佳子  
松本 高宏

フルード  
坂井 昌子  
小池 かほる

オーボエ  
瀬尾 祥治  
吉田 容子

岡山交響楽団

1st.ヴァイオリン 平松 祐美  
内藤 允子  
三上 泰史  
室住 麻子  
紀伊 良彦  
倉田 千鈴  
阿曾沼 和代  
景山 慶彦  
小野 恵美  
鈴木 毅  
中塚 えりか  
出宮 治子  
丸山 博樹  
中野 了(賛助)

2nd.ヴァイオリン  
片山 みずえ  
大森 恭子  
馬生 圭依子  
内山 智小美  
馬場 裕子  
黒木 美沙緒  
星野 友作  
高橋 あすか  
蔵本 綾

ヴァイオラ  
上杉 善子  
金子 剛  
中村 尚子  
尾銭 健介  
福浦 辰生  
秋山 すなほ  
堀江 綾子  
井上 順子  
安藤 知恵子  
山本 浩之

チェロ  
秋森 裕司  
市川 清  
太田 潤  
三輪 峯  
西田 毅弘  
市川 みずほ  
杉山 憲彦  
岡野 朱里  
安藤 利博  
千種 英明

コントラバス  
近藤 博紀  
永井 優子  
竹内 真理子  
林 環(賛助)  
河本 直樹(賛助)  
藤井 啓輔(賛助)

フルード  
熊瀬 好  
伊豆丸 利江子  
清水 昌美

まなびピア岡山2007 参加事業

第5回 おかやま県民文化祭総合フェスティバル

晴れの国おかやま 文化回廊  
国民文化祭・おかやま2010  
平成22年10月30日(土)～11月7日(日)

オーケストラの祭典

日時 11月3日 土

会場 岡山シンフォニーホール

Orchestra Festival

川崎医科大学室内管弦楽団 ベートーヴェン／歌劇「フィデリオ」序曲 指揮:伊豆丸 健

岡山大学交響楽団 ブルックナー／交響曲第4番「ロマンティック」より第2&4楽章 指揮:秋山 隆

倉敷管弦楽団 ベートーヴェン／「交響曲第7番」 指揮:菊池 東

岡山交響楽団 ホルスト／組曲「惑星」(合唱:岡山少年少女合唱団) 指揮:杉本 賢志

合同演奏 エルガー／行進曲「威風堂々」第1番 指揮:杉本 賢志

主催:岡山県、おかやま県民文化祭実行委員会、岡山県オーケストラ連盟、(社)岡山県文化連盟  
後援:岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、倉敷市教育委員会、山陽新聞社、山陽放送

# オーケストラの祭典

Orchestra Festival

ごあいさつ



岡山県オーケストラ連盟理事  
田辺 幹夫 (倉敷管弦楽団団長)

この度の第5回おかやま県民文化祭総合フェスティバル「オーケストラの祭典」開催に当たり、岡山県オーケストラ連盟を代表する形でごあいさつを申し上げます。

岡山県オーケストラ連盟は平成11年3月に設立し、現在5つのオーケストラが加盟しており、いずれも長い歴史と高い演奏能力を誇り、県内各地で演奏活動を展開しています。

この度、県民文化祭総合フェスティバルの機会にこれらのオーケストラが一堂に会してそれぞれの演奏を披露するという、めったにない催しを実現することになりました。

今日はそれぞれのオーケストラが名曲中の名曲を演奏し、最後に全員が集結してエルガーの行進曲「威風堂々」でしめくくるといふ、まさに「オーケストラの祭典」というにふさわしい演奏を展開します。

今日の日を目指してどのオーケストラも普通以上の練習を重ねて来ました。

今回出演できなかった倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラの分までしっかり演奏したいと思います。

どうか最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

最後にこの演奏会を開催するに当たりご支援、ご後援くださいました皆様に心より感謝いたします。

## Program

### プログラム

川崎医科大学室内管弦楽団

ベートーヴェン／歌劇「フィデリオ」序曲 指揮:伊豆丸 健

岡山大学交響楽団

ブルックナー／交響曲第4番「ロマンティック」より第2&4楽章 指揮:秋山 隆

倉敷管弦楽団

ベートーヴェン／「交響曲第7番」 指揮:菊池 東

岡山交響楽団

ホルスト／組曲「惑星」 指揮:杉本 賢志

合唱:岡山少年少女合唱団

合同演奏

エルガー／行進曲「威風堂々」第1番 指揮:杉本 賢志

## Program note

### 曲目紹介

#### ベートーヴェン／歌劇「フィデリオ」序曲

歌劇「フィデリオ」は、ベートーヴェンの唯一の歌劇。原作は「レオノーレ」といい、すでに他の作曲家が同名の歌劇を作曲し上演していたので、「フィデリオ」と名付けられている。レオノーレは主人公の女性の名で、夫フロレスタンが無実の罪で監獄に閉じ込められているのを救うために男装して救出に向かうときの偽名「フィデリオ」に由来している。

ベートーヴェンはこの歌劇のために4曲も序曲を残している。というのも、歌劇自体が2回改稿されて3種類あり、初めの3曲は「レオノーレ」1番から3番で、最終的に今日演奏する「フィデリオ」が作られた。

「フィデリオ」最初の公演は、ナポレオン率いるフランス軍がウィーンを占領した直後のことで、当然の事ながら占領されたウィーン市民にオペラを見に行く余裕はなく、客の大部分はドイツ語を介さないフランス軍人だったため、不評のため3日で公演中止。初演から10年後、三度上演のチャンスがあり、その都度台本を改訂し改訂を繰り返した。そして、最終的に演奏されたのが現在の「フィデリオ」序曲である。

## 曲目紹介

## Program note

### ブルックナー／交響曲第4番変ロ長調「ロマンティック」

アントン・ブルックナーは 1824 年、オーストリアのアンスフェルデンで生まれました。ブルックナーは少年時代に学校の教師だった父の死によって住んでいた官舎を追われ、リンツ近郊の聖フローリアン修道院に引き取られました。ここで一時少年聖歌隊員になり、後にオルガニストを務めたことが、彼の音楽の創造に大きな影響を与え、もともと敬虔なカトリック教徒であったブルックナーの精神世界が音楽に色濃く繁栄されています。

ブルックナーは作曲家として本格的な活動を始めたのは 40 歳を過ぎてからという大器晩成型でした。彼は 11 作の交響曲を残しました。この交響曲群と数多くの宗教音楽が、彼の 30 年余の作曲創造のすべてといえます。ブルックナーはベートーヴェン以降の最も重要な作曲家で、古典派音楽の厳密な構成原理を枠組みにして、そこにカトリック的な思想を加え、さらにワーグナーの舞台音楽やオーストリアの民謡風舞曲なども取り入れながら、多彩かつ壮大な音楽世界を築いていったのです。

ブルックナーの交響曲の大きな特徴として、“原始霧”と呼ばれる弦楽器のトレモロで始まる「ブルックナー開始」、全休符で楽想の転換を図る「ブルックナー休止」、オルガンの響きを模した「ブルックナー・ユニゾン」、さらに主題に 3 連音のリズムを用いる「ブルックナー・リズム」などの管弦楽法が挙げられます。これらのすべての特徴が現れ、「ロマンティック」という副題もあって親しまれているのが第 4 番です。この「ロマンティック」という副題は、日本人は恋愛的なものを意味することが多いものではなく、大自然の中で暮らす人間の生の営みを表した音楽です。

この曲は 1874 年 1 月 2 日に作曲を開始し、同年 11 月 22 日に書き上げられました。しかし、この第 1 稿はブルックナーの“推敲魔”と呼べるほどの気質もあって演奏されることもなく放置され、1878 年に大改訂を行った第 2 稿が完成されました。1880 年には最終楽章にさらに手を加えた第 3 稿が完成されました。本日は、今日最も演奏されることの多いソヴァーク版で 2， 4 楽章をお届けいたします。

### 第2楽章 Andante, quasi allegretto

ロンド形式。弱音器を付けたヴィオラとチェロが歌う憂愁を帯びた第 1 主題を中心にした楽章。これが木管楽器によって歌い継がれた後、弦によって聖歌風の旋律が奏でられます。「ブルックナー休止」を挟んで、いかにも寂しげな第2主題がヴィオラによって提示されます。展開部の頂点で壮麗なクライマックスが築かれた後、長大なコーダが静かに閉じられます。

### 第4楽章 Finale. Bewegt, doch nicht zu schnell

ソナタ形式、3 つの主題を持つ。序奏の後、第 43 小節第 1 主題が始まり、金管楽器群の力強い合奏の後、静かな弦楽器が奏でられる。まるで広大な宇宙の広がりを表した楽章です。ここでもブルックナー・リズム (2+3 連音符) が第 1 主題を支配し、やがて第 1 楽章の第 1 主題が形を変えて再登場します。第 2 主題は“Noch langsamer” (やや遅く) という標語がある。第 3 主題は強烈な 6 連音符が第 2 主題の流れを打ち破る。コーダでは、テンポを大きく落とし、弦楽器群が奏でる 6 連音符のトレモロをバックに、教会で奏でられるような敬虔なトロンボーンの 3 重奏がコラーレ (合唱曲) 風を高揚を始める。やがてホルンの高らかな音に引き継がれ、第 1 楽章の第 1 主題を歌い上げながら全曲を締めくくります。

### ベートーヴェン／「交響曲第7番」

ベートーヴェンの交響曲と言えば誰でも知っているのがジャジャジャジャーで始まる「運命」(第 5 番)、毎年年末になると日本中にひびき渡る「第九」(第 9 番)、そのほかにも「英雄」(第 3 番)、「田園」(第 6 番) が広く知られていますが第 7 番という曲は名前もついておらず、余り目立たない存在でした。

ところが最近この第 7 番がにわかに各地で演奏されるようになり、これはコミックの「のだめカンタービレ」で取り上げられた影響もあるようですがもともとこの曲はウィーンで初演のときから大変好評で、特に第 2 楽章はアンコールを求められたほどだそうですから、ほかの交響曲に劣らない名曲であることは疑いありません。

曲は 4 つの楽章からできており、第 1 楽章は重厚な序奏から躍動する速いリズムに移り、第 2 楽章は「不滅のアレグレット」と言われた美しいメロディが色々な楽器で繰り返されます。第 3 楽章は軽快なプレストとのびやかな中間部が繰り返され、第 4 楽章は強烈なリズムが壮絶な盛り上がりを見せて全曲を結びます。

## Program note

### ホルスト／組曲「惑星」

イギリスの作曲家ホルストの最高傑作。ホルスト (1874-1934) は占星術に傾倒しており、その結果生み出されたのが組曲<惑星>であると伝えられています。つまりホルストは、天文学的なイメージでこの組曲を作曲したのではなく、占星学で説かれている惑星のイメージを、音で再現してみようと考えたのでした。全曲は 7 つの楽章で、太陽から近い順番ではなく火星、金星、水星、木星、土星、天王星、海王星の順番で構成されます。冥王星が発見された 1930 年はホルストの存命中でしたが、ホルストは改定を行うことはありませんでした。迷惑な興行師が冥王星をコリン・マシューズに作曲させ、客寄せをねらったものの、冥王星は 2006 年の国際天文学会議で準惑星に降格し、惑星は地球を含めて 8 つにすると定義づけられました。その意味ではホルストに先見の目があったのかもしれませんが。

### 火星～戦争の神～ Mars, the Bringer of War.

火星は「戦いの神マルス」に称えられていて、昔から「戦争をもたらす星」ともいわれてきました。曲は全曲を通して、ティンパニと弦を弓の木で叩くコル・レーニョによる 4 分の 5 拍子の力強いリズムが執拗に繰り返されていき、この特徴あるリズムを背景に性格の異なる 3 つの主題が展開されます。

### 金星～平和の神～ Venus, the Bringer of Piece.

金星は、「愛と美の女神ヴィーナス」の名に象徴されるかのように、静穏でやすらぎに満ちた音楽です。

### 水星～翼のある使いの神～ Mercury, the Winged Messenger.

最も太陽に近い惑星である水星は、昔から、天空の使者が空を翔けめぐるかのような印象を与えるとされてきました。全 7 曲の中でも一番短く、全体的にスケルツォ的な音楽。

### 木星～快楽の神～ Jupiter, the Bringer of Jollity.

最も有名な楽章で、年配の岡山人はバス会社の CM、「オレたちひょうきん族」。若年の方は平原綾香の歌謡曲を思い出すでしょう。「木星」は全 7 曲の中で最もスケールが大きく、壮大なオーケストレーションによる祝典的な音楽が展開されます。

### 土星～老年の神～ Saturn, the Bringer of Old Age.

ホルスト自身、最も気に入っていたというこの楽章は、経験豊かな老年者の充実ぶりを表した、複雑な響きを持つ音楽。荘厳なオルガンの響きが増幅されて、曲に厚みをつけていき、最後は鐘の音とともに静かにコーダを迎えます。

### 天王星～魔術の神～ Uranus, the Magician.

当時あまりなじみのなかった天王星には、「魔術師 (マジシャン)」のイメージが与えられています。曲は、呪文のような旋律の後、魔法が現れるという構成になっていて、ホルスト独自の巧妙なオーケストレーションが最高度に発揮されています。

### 海王星～神秘の神～ Neptune, the Mystic.

神秘さを帯びた天上的な雰囲気の中からソプラノとアルトによる合唱が加わり、あたかも質量がゼロに近づいていくかのように、宇宙へ溶けこんでゆきます。

### エルガー／行進曲「威風堂々」第1番

行進曲《威風堂々》作品 39 は、1901 年から 1930 年にかけて作曲された 5 曲の管弦楽のための演奏会用の軍隊行進曲で、そのタイトルはシェイクスピアの「オセロ」第 3 幕第 3 場でのオセロの名セリフ中の“pomp and circumstance of glorious war”から取られている。

エルガーの音楽において最もよく知られた第 1 番は、1901 年 10 月 19 日にロンドンで初演された。

曲は最も遠い関係調 (ナポリ調) である変ホ長調の短い序奏から一気にエルガー特有のエネルギッシュなニ長調の主部に入る。

主部冒頭動機の反復進行による素晴らしい高揚をしめす新たな継続部を経て、劇的なファンファーレで導入部が再現され、そのままトリオにはいり、よく知られた力強い旋律があらわれる。

主部全体が再現した後再びトリオの旋律が壮大に再現され、主部によるコーダで、急速に終曲をむかえる。

川崎医科大学室内管弦楽団



昭和45年結成。川崎医科大学創立当時から存在するクラブの一つ。河田文忠先生を常任指揮者に迎え、昭和48年11月には第1回定期演奏会を開催。

以降、春には院内で入院患者を対象に演奏会を行い、また秋には年に一度の定期演奏会を倉敷にて開いています。平成15年には伊豆丸健先生を常任指揮者に迎え現在では部員は約40名まで増え、本年10月には第35回定期演奏会を倉敷市芸文館で開催しました。

岡山大学交響楽団



私たち岡山大学交響楽団は、常任指揮者に保科洋先生をお迎えして、年2回、夏と冬に演奏会を行っており、定期演奏会は今年で54回を数えます。定期演奏会の他にも、5年ごとに大阪のザ・シンフォニーホールで記念演奏会を、また同じく5年に一度京都大学交響楽団の皆さんとジョイントコンサートも行っています。

約120人の部員の中でも、特に弦楽器は大学から楽器を始めた初心者の方が大半を占めます。まだまだ未熟な私たちですが、各楽器のトレーナーの先生方、トランペットのOBでサブコンダクターの秋山隆先輩、諸先輩方、そして保科洋先生のご指導のもと、少しでも良い音楽に近づけるよう日々練習に励んでいます。

今回はサブコンダクターの秋山先輩の指揮で、12月の定期演奏会の曲目からアントン・ブルックナー作曲、交響曲第4番へ長調「ロマンティック」より、第2、第4楽章を演奏いたします。

12月1日(土)には、岡山シンフォニーホールで第54回定期演奏会を予定しております。こちらにも皆様ぜひご来場下さい。

倉敷管弦楽団



伊豆丸 健



国立音楽大学においてトランペットを北村源三、熊谷仁士、指揮法を小林秀雄の各氏に師事。トランペット奏者としてソリスト、オーケストラ、アンサンブルなど活動しドヴォルザーク室内オーケストラ(スロバキア)、川崎医科大学室内管弦楽団にソリストとして共演する。現在トランペット、合奏の指導を行っている。

岡山市ジュニアオーケストラ指導員、就実カレッジウインドアンサンブル常任指揮者。

秋山 隆



昭和40年、岡山市に生まれる。高松中学校吹奏楽部にて奥原弘巳氏に指導を受け、当時新設の岡山一宮高校に進学。昭和59年岡山大学医学部入学と同時に岡山大学交響楽団にトランペット奏者として入団。現役時代には学生指揮者を務め、卒業後サブコンダクターとして、常任指揮者保科洋氏のアシスタントを行う。

トランペットを鈴木勝久氏に師事。指揮法を奥原弘巳氏、保科洋氏、David Milnes氏に師事。管弦楽法、音楽解釈を保科洋氏に師事。平成14年10月より川崎医科大学病理学教室・講師。保科アカデミー室内管弦楽団「アンサンブル=ハルモニア」代表。平成11年2月からアメリカへ留学、平成12年11月に帰国し、約2年ぶりにサブコンダクターとして活動を再開する。

「美しい音色とよいアンサンブルで質の高い演奏を」を合い言葉に昭和49年に設立され、文化都市倉敷市にふさわしい若さと熱気に満ちた楽団として活躍を続け、今年で33年目になります。その間、昭和57年には岡山県教育関係功労者表彰、昭和60年には倉敷市文化連盟賞、平成16年には三木記念助成金、平成18年には福武文化奨励賞を受賞しました。また平成18年には常任指揮者の菊池東氏が倉敷市文化章を受賞しました。

毎年1回開催する定期演奏会では、これまで客演指揮者に早川正昭

氏、堤俊作氏、金洪才氏、佐渡裕氏、星出豊氏、田中一嘉氏、増井信貴氏ら、フルートでは世界的巨匠ジャン・ピュール・ランバル氏、ヴァイオリンではイヴリー・ギトリス氏、前橋汀子氏、漆原啓子氏、天満敦子氏、アナスタシア・チェボタリョワ氏、久保陽子氏、ピアノの深沢亮子氏、伊藤恵氏、花房晴美氏、ウラジミール・オブチコフ氏、ルース・スレンチェンスカ氏、チェロの岩崎洗氏、山崎伸子氏、オーボエの茂木大輔氏、トランペットの津堅直弘氏、ホルンの松崎裕氏、ギターの前田進一氏を招へい。また岡山県内で活躍している演奏家との共演も数多く行っています。倉敷音楽祭へも毎年のように出演し、ミュージカル「11匹のネコ」、ヘンデル「メサイア」、プッチーニ「ラ・ボエーム」、團伊玖磨「夕鶴」、ビゼー「カルメン」、モーツァルト「フィガロの結婚」その他を演奏しました。県内のオーケストラを聞く機会が少ない地域へも毎年のように出向いて演奏会を開いて来ました。

演奏曲目はバロックから現代曲まで幅広く、團伊玖磨氏作曲「管弦楽のための高梁川」、小六禮次郎氏作曲「瀬戸内讃歌」などを初演。オペラではモーツァルト「魔笛」、「フィガロの結婚」、「コシ・ファン・トゥッチ」、ビゼー「カルメン」、J・シュトラウス「こうもり」、プッチーニ「蝶々夫人」等を演奏。

創立10周年記念演奏会では400名からなるベートーヴェン「第九」、20周年ではイヴリー・ギトリス氏、岩崎洗氏との「コンチェルトの夕べ」を開催し、30周年ではマーラー「交響曲第1番・巨人」を演奏しました。

岡山交響楽団



1983年11月、83名の団員で発足。今年24年目を迎えました。発足以来、自主的かつ民主的な運営を行いながら、年2回の定期演奏会を基軸に、山陽放送主催の「夏休みさわやかコンサート」、岡響ソリストデン(団内演奏会)などの演奏活動を行っています。

現在の団員数は97名。大学生、教師、医師、主婦、会社員、公務員など幅広い層で構成し、毎週水曜日の夜に早鳥のゆるびの舎で練習しています。これまでに「岡山作曲家6人の会」の新作初演シリーズ(89~94)、「コウワバレエ」(95)及び「岡田バレエ」(98)との「胡桃割り人形」全2幕共演、「コウワバレエ」と「白鳥の湖」全4幕の共演(01)、「いかさ第九の会」との第九演奏会(95・97・99・01・03・05)を行ってきました。

1996年の第24回定期演奏会では岡山県芸術祭賞を受賞し、同年から岡山の音楽家との共演シリーズを推進中で、昨年11月の第44回定期演奏会ではピアニストの松本和将氏と、また今年5月の第45回定期演奏会ではチェリストの藤原真理氏と共演を行い、いずれも大好評を博しました。

1997年12月岡山城築城400周年記念ミュージカル「碧き流れのほとりに」(作曲：伊豆丸眞美)に出演。

2002年からは「おかやま音楽祭」に参加し、ワークショップを通して市民により身近なコンサートを行っています。今年も改名された「おかやま国際音楽祭」に参加しました。

2005年3月 平成16年度岡山県文化奨励賞を受賞。

菊池 東



5歳の時よりヴァイオリンを始める。広島大学工学部醸酵工学科に入学。在学中、広島大学室内合奏団の指揮者としてクラブ活動を続けるかわら、広島市民交響楽団(現広島交響楽団)の団員としてオーケストラ活動を始める。昭和46年東京都民交響楽団に入団しサブコンサートマスターを経験、昭和48年に帰岡。帰岡後倉敷にもオーケストラをという要望に応え昭和49年に倉敷室内管弦楽団(現倉敷管弦楽団)を設立。以来現在まで32年にわたり同楽団の常任指揮者として、交響曲・管弦楽曲・協奏曲を中心に、バロック音楽から映画音楽・ミュージカル・オペラと幅広いレパートリーをもって各地で演奏会を開催している。平成18年7月にはブルガリアホールにおいて、ブルガリア国立ソフィアフィルハーモニーを指揮する機会を得、「新世界より」を演奏、その模様はドキュメント番組「菊池東57歳の挑戦」として玉島テレビ・倉敷ケーブルテレビ等で放送された。また、ソロ活動をする音楽集団である倉敷音楽協会においては、平成11年より会長を務め、児童音楽コンクールを開催し、倉敷を中心として児童の音楽レベルの向上に寄与している。現在倉敷文化ソサエティ21の音楽部長として倉敷市文化振興財団主催の各種演奏会の企画に携わるなど、倉敷の音楽レベル向上に貢献している。平成18年秋には長年の文化活動が認められ、倉敷市文化章を受賞している。

杉本 賢志



1950年 岡山県生まれ  
1969年 岡山大学工学部入学。同時に岡山大学交響楽団に入団  
1974年 岡山大学交響楽団サマーコンサートにおいて、R・シュトラウスのホルン協奏曲第1番を共演  
1978年 岡山大学交響楽団のコンダクターとなり、以降10年間保科洋先生のもとで研鑽を積みつつ後輩の指導に当たる。  
1983年 岡山交響楽団発足と同時にホルン奏者として入団、インスペクター・運営委員長・団長を歴任し1996年より同団の常任指揮者を務める。  
1992年 川崎医科大学室内管弦楽団第19回定期演奏会において、モーツァルトのホルン協奏曲第3番を共演  
1998年 保科アカデミー室内管弦楽団第4回定期演奏会において、モーツァルトのホルン協奏曲第2番を共演  
2007年 保科アカデミー室内管弦楽団第10回定期演奏会において、保科洋氏のソロホルンとオーケストラのための「舞」を共演(初演)  
現在 岡山交響楽団常任指揮者 川崎医科大学室内管弦楽団管楽器トレーナー  
倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ指導員  
逸見緑地(株)に勤務。